

パフォーマンスアセスメントの意義・活用の研究

調査の概要

◆課題認識

- ・教員養成課程でPAに関する教職科目がほとんどない。
- ・小学校現場でPAを行う準備が教師側にほとんど行われていない。

◆調査研究の目的

- ・PAに関するスキルの習得を教員養成課程の必修科目として位置付ける。
- ・PAを実施するノウハウを学校現場に伝達する。

◆調査研究の方法

- ・PAを実施する包括マニュアルの提案及び教職課程における導入
- ・学校現場でのノウハウの伝達

◆調査研究校

- ・長崎県南島原市・佐世保市（義務教育校）
- ・小学校2校、中学校2校、高等学校1校

◆現状

- ・教職課程を有する国公立大学でPAを取り上げたシラバス記述は見当たらない。
- ・PAを実施する際の前提条件に関する理解不足

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①教職課程を有する国公立大学のPAに関するシラバス調査

- ・PAを教職科目（例えば、「英語科教育法」等）で取り上げている事例の有無について、調査を行なった。
- ・スピーキング力の評価を取り上げている事例の有無も併せて調査を行なった。

②小学校を中心とした現場でのPAモデルの提供

- ・調査研究校において、指導・助言を行いながらPAモデルを2回提案・実施した。
- ・PAの実施後、校種別の結果とその分析から得られる知見を示し、今後の授業構成や指導法等の参考としてもらった。また、通校種的観点から、学習指導要領に従い、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの校種で、スピーキングに関し、どこまで伸ばしておくべきかを改めて確認した。

◆成果

- ・これまでPAの全体像が曖昧だったものが、PAの前後の準備・活用段階も含めて明らかになった。
- ・ALTをPAの試験官とすることで、ALTの新たな活用法が見出せた。
- ・PAは、「使える英語」という観点から、こどもたちのスピーキング力を伸ばす優れた方法の一つであることが分かり、教職課程でそのスキルを習得させたい能力との認識を得た。

今後の課題

◆パフォーマンス・アセスメントの啓蒙・普及の支援

- ・PAを教職課程の必修科目として位置付けるにあたり、PAに対する教師の認知の動向も把握する必要がある。
- ・ALTをPAの試験官として活用する際には、一定程度の研修・訓練が必要。